

■ どうして今回ガイドラインを作ったの? ■

- 生徒と先生が調和のとれた学校生活を送るためです。
- 生徒が主体的に部活動に取り組むためです。
- 保護者や地域の方々を含めた、部活動に関わる全ての人々が、持続可能な部活動の未来の姿を共有するためです。

これまでも、部活動は生徒が豊かな学校生活を送る上で大きな意義を持つものとして、教職員の大きな力により、充実を図ってきました。



適度な部活動は、生徒の健全な成長を促しますが、過度な活動は生徒の心身の健康を損ない、意欲の低下を招きます。

また、教職員の負担につながるなどの課題を生じ、結果として部活動を楽しむことが難しくなります。

現状の課題や、これから起こりえる課題は次のようなものが考えられます。



様々な課題

専門的な知識・技術

競技(指導)経験の浅い教職員の増加による指導力の低下

少子化

部員数が減少し、部活動の維持が困難
顧問数が不足し、教職員の負担が増加

安全対策

医・科学的な根拠によらない指導、暑さ対策を含む活動環境及び施設・用具の点検・管理

指導者の悩み

環境の変化

過度な活動・行き過ぎた指導

多様化への対応

部活動に対する、生徒・教職員・保護者などのニーズの多様化への対応

体罰・暴力行為

感情的な指導、生徒の人格を否定する言動、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント等

勝利至上主義

勝利を追求する過程を軽視し、勝つことだけが目的になる

バーンアウト

過度な活動による心身の疲労の蓄積と、それによる意欲の喪失

学校の取組

- ▶ 学校は、本ガイドラインを踏まえ、「学校の部活動における活動方針」を作成し、保護者へ説明するとともに、学校のホームページへの掲載等により公開します。
- ▶ 校長は、部活動の活動内容を把握し、学校全体の部活動のバランスを考え、部活動をマネジメントします。

適正な数の部活動を設置します

- ▶ 学校は、活動内容の充実、生徒の安全の確保、教職員の長時間勤務の解消等のために、生徒や顧問の数から、適正な数の部活動を設置します。

適切な指導体制を整備します

- ▶ 学校は、適切な指導や運営ができ、効率的・効果的な体制になるよう、顧問を決定します。
- ▶ 各部活動の活動内容を確認し、部活動指導員や部活動外部指導者等の外部人材を活用するなど、指導体制の充実を図ります。

生徒のニーズを踏まえた部活動をつくります

- ▶ 生徒のニーズを踏まえ、競技力・表現力を追求する活動や、健康・レクリエーション志向の活動等、様々な目的をもった部活動の設置を目指し、生徒の心身の発達を促すための部活動づくりを行います。
- ※部活動は、「活動したい生徒」「活動できる場所と時間」「指導する顧問」の要件が満たされることにより成立します。



顧問(指導者)の取組

- ▶ 顧問(指導者)は、「学校の部活動における活動方針」に沿って、部の活動方針及び年間・月間活動計画を作成し、校長へ提出するとともに、生徒、保護者へ説明します。
- ▶ 安全管理を徹底し、生徒の状況や活動環境に応じて適切で柔軟な指導をします。

適切な活動時間と休養の必要性について理解します

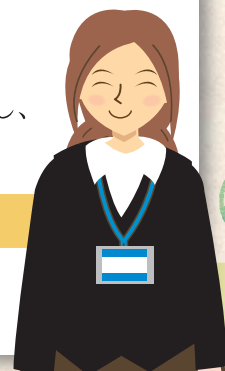
- ▶ 運動部活動においては、スポーツ医・科学の観点から、過度の練習がケガのリスクを高めること、トレーニング効果を十分に得られないことや、文化部活動においても、長時間の活動は精神的・体力的に負担を伴うことを正しく理解します。

活動計画を作成・実践します

- ▶ 活動計画の作成にあたっては、生徒とコミュニケーションを図って、無理のない計画を立てます。
- ▶ 自身の授業やその準備、その他の様々な業務とのバランスがとれた計画とします。
- ▶ 校内で顧問(指導者)がお互いに支援し合える体制をつくり、生徒の健康管理や安全管理を徹底し、学校の実情、生徒の実態に応じて活動します。

体罰・暴力行為、ハラスメントを排除します

- ▶ 体罰・暴力行為あるいは人格を否定するような暴言等によるハラスメントを認めず、これらを許さない部活動に取り組みます。



部活動を楽しむための取組

生徒・保護者の取組

- ▶ 生徒は、主体的に部活動に参加し、調和のとれた学校生活の中で部活動を楽しみましょう。
- ▶ 生徒・保護者は、部活動の方針や計画を理解しましょう。
- ▶ 保護者は、生徒の調和のとれた生活を応援しましょう。

部活動は生涯にわたって運動や文化的活動を楽しむための入口です

- ▶ 効率的・効果的な活動や、適切な休養をとることが、精神的・体力的な負担を軽減することにつながります。休養日を有効に使うことで、心身をリフレッシュさせ、より良いパフォーマンスが期待できます。
- ▶ 勝つことだけを目指すのではなく、自分の能力にあった目標を設定して、主体的に取り組むことが大切です。
- ▶ 保護者は、生徒にとっての一番のサポーターです。顧問(指導者)とともに生徒の調和のとれた生活を応援しましょう。



教育委員会の取組

- ▶ 学校の状況に応じた部活動の指導体制づくりを支援します。
- ▶ 持続可能な部活動の未来のために、部活動の新しい在り方の研究・検討を続けます。
- ▶ 生徒の新しい学び方、教職員の負担軽減を、部活動をとおして支援します。

部活動の充実を支援します

- ▶ 部活動指導員の配置を拡充し、部活動指導体制の充実を図ります。
- ▶ 大学や企業等の外部機関と連携を図り、部活動指導員の育成や人材確保を推進します。
- ▶ ICTを活用した部活動支援の研究・検討を進めます。
- ▶ 熱中症事故防止研修や部活動科学講座等の指導者研修の充実を図ります。

部活動の新しい在り方を研究・検討します

- ▶ 中学校体育連盟[※]や各種目協会、文化団体等の関係機関と連携を図り、大会・コンクール数や競技形式について見直しを進めます。 ※保健体育科教員や、運動部活動顧問等で構成される組織
- ▶ 競技志向、健康・レクリエーション志向、兼部等、生徒のニーズに応じた部活動の在り方を検討します。
- ▶ 時期によって競技種目を変えるなどのシーズン制等、生徒の活動機会の充実を目的とした部活動の運営方法を検討します。



部活動を楽しむために

ガイドラインの 12 項目

部活動は、学校教育の一環として、生徒と先生の調和のとれた生活の中で行われるものです。

- 1 部活動休養日を週に平日 1 日以上、土日 1 日以上として設定します。
- 2 1 日の活動時間を、平日 2 時間程度、休日 3 時間程度として設定します。
- 3 大会・コンクール等で土日に活動した場合は、休養日を他の日に振り替えて確保します。
- 4 学校は、ガイドラインを踏まえて、「学校の部活動における活動方針」を策定し、学校のホームページ等で公開します。
- 5 学校は、保護者説明会等をとおして、「学校の部活動における活動方針」を説明します。
- 6 顧問(指導者)は、「学校の部活動における活動方針」を踏まえて、年間・月間活動計画を作成し、校長へ提出します。
- 7 顧問(指導者)は、「学校の部活動における活動方針」を踏まえて、部の活動方針等を作成し、生徒、保護者に説明します。
- 8 顧問(指導者)は、適切な指導方法、コミュニケーションの充実等により、生徒の主体的な活動を促します。
- 9 顧問(指導者)は、過度な練習がスポーツ外傷・障害のリスクを高め、必ずしも体力・運動能力の向上につながらないこと等を理解します。
- 10 顧問(指導者)は、トレーニング効果を得るため、生徒には適切な休養が必要であることを理解して実践します。
- 11 生徒は、大会・コンクール等で最大限の力を発揮するために、活動と休養のバランスが大切であることを理解して実践します。
- 12 保護者は、「学校の部活動における活動方針」及び部の活動方針等を理解し、生徒の調和のとれた生活を応援しましょう。

参考資料

「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」
スポーツ庁 平成30年3月 ▶



「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」
文化庁 平成30年12月 ▶



※本ガイドライン及び「横浜の部活動～部活動の指針～【改訂版】」については、横浜市ホームページからもご覧いただけます。